

令和 8 年度
関西広域連合 登録販売者試験問題
＜ 前 半 ＞

医薬品に共通する特性と基本的な知識	20 問
主な医薬品とその作用	40 問

注 意 事 項

試験開始の指示があるまで、試験問題を開かないでください。

- 1 試験時間は、120 分です。
- 2 解答用紙（マークシート）は、試験問題と別に配布します。
- 3 解答用紙に記入されている受験番号が受験票記載の受験番号と一致しているかを確認し、一致していれば解答用紙に氏名を正確に記入してください。
- 4 解答の方法は、問題の選択肢から正解と思うものを1つ選び、解答用紙の解答欄の数字をマークしてください。複数をマークしている場合は、不正解となります。
- 5 解答用紙へのマークの方法は、解答用紙に記載してある《注意事項》を遵守してください。
- 6 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
- 7 試験問題中の成分名、人名などの表記そのものには誤りはないものとして解答してください。
- 8 試験問題文中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「法」と省略して記載しています。
- 9 問題の内容については、質問を受け付けません。
- 10 受験票と試験問題は、持ち帰ってください。

試験会場では静粛にし、試験監督者の指示に従ってください。
不正行為や試験監督者の指示に従わないときは、退場を命じ、受験を無効とする場合があります。

#####

[医薬品に共通する特性と基本的な知識]

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。
- c 法では、健康被害の発生の可能性がある場合のみ、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。
- d 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、有効性、安全性等に関する新たな医薬品情報に円滑に対応できるよう、常に情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 2

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品も医療用医薬品と同様、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- b 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- c 購入者等が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するためには、その販売に専門家が関与し、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供を行うことが不可欠である。
- d 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（P L法）の対象外である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問3

医薬品の効果とリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品の投与量と効果の関係は、薬物用量の増加に伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。
- b 医薬品は、少量の投与であれば、長期投与されたとしても慢性的な毒性が発現することはない。
- c 医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準として、Good Vigilance Practice (G V P) が制定されている。
- d ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Clinical Practice (G C P) が制定されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 4

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 健康増進や維持の助けになることが期待されるいわゆる「健康食品」は、あくまで食品であり、医薬品とは法律上区別される。
- b 「特定保健用食品」は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むもので、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す効果や安全性などに関する国の審査を受け、許可されたものである。
- c 「機能性表示食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに機能性関与成分が有する健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして、国の個別の許可を受けたものである。
- d 一般用医薬品の販売時には健康食品の摂取の有無について確認することは重要で、購入者等の健康に関する意識を尊重しつつも、必要があればそれらの摂取についての指導も行うべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問5

セルフメディケーションへの積極的な貢献に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 世界保健機関（WHO）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」とされている。
- b セルフメディケーションの主役は、一般用医薬品の販売等に従事する専門家であり、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- c 地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時は医療機関の受診を勧める業務は、セルフメディケーションの推進に欠かせない。
- d 一般用医薬品の販売等を行う登録販売者は、地域医療を支える医療スタッフあるいは行政などとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進、生活の質（QOL）の改善・向上などに携わることが望まれる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問6

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 副作用は、発生原因の観点から、薬理作用によるものとアレルギーによるものに大別することができる。
- b 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病の症状を悪化させることもある。
- c 医薬品を十分注意して適正に使用すれば、副作用が生じることはない。
- d 副作用は、明確な自覚症状として現れ、容易に異変を自覚できるものばかりである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問7

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アレルギーとは、免疫機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることである。
- b 医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となり得ない。
- c 病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合、普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、思わぬアレルギーを生じることがある。
- d 外用薬では、アレルギーが起こることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 8

一般用医薬品の使用等に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 本来の目的以外の意図で、定められた用量を超えて服用しても短期間であれば問題ない。
- b みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- c 一般用医薬品にも、習慣性・依存性がある成分を含むものがある。
- d 医薬品の乱用によって薬物依存が形成されても、使用を中止すれば、すぐに離脱できる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 9

複数の医薬品による相互作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいることが多く、他の医薬品と併用した場合に、作用が強く出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがある。
- b 複数の疾病を有する人では、疾病ごとに医薬品が使用されるため、相互作用の注意をする必要はない。
- c 医薬品の相互作用は、医薬品の作用が増強する場合だけでなく、逆に減弱する場合もある。
- d 相互作用による副作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確な場合には、なるべくその症状に合った成分のみを含む医薬品を選ぶことが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 1 0

医薬品と食品の相互作用に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 酒類（アルコール）は、医薬品の代謝に影響を与えるが、吸収には影響を与えない。
- b カフェインのように、食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在する場合、それらを含む医薬品と食品と一緒に摂取すると過剰摂取となるものもある。
- c 生薬成分等が配合された医薬品と、ハーブ等の食品を合わせて摂取すると、その医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- d 食品との相互作用は内服薬で起こるものであり、外用薬では考慮する必要はない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 1 1

小児等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、おおよその目安として1歳未満を「新生児」としている。
- b 5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- c 医薬品が喉につかえると、大事に至らなくても咳きこんで吐き出し苦しむことになり、その体験から乳幼児に医薬品の服用に対する拒否意識を生じさせることがある。
- d 一般に乳幼児は、容態が変化した場合に、自分の体調を適切に伝えることが難しいため、医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 2

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、おおよその目安として75歳以上を「高齢者」としている。
- b 生理機能の衰えの度合いは個人差が小さいため、年齢から副作用を生じるリスクがどの程度増大しているか判断することができる。
- c 医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、その場合、誤嚥^{えん}を誘発しやすくなるので注意が必要である。
- d 医薬品の取り違いや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があり、家族等の理解や協力も含めた配慮が重要となることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 1 3

妊婦又は妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品においては、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が確立している。
- b 妊娠の有無やその可能性については、購入者等にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家が情報提供や相談対応を行う際には、十分配慮することが必要である。
- c 便秘薬は、配合成分やその用量にかかわらず、流産や早産を誘発することはない。
- d 乳汁中に移行することが知られている医薬品の中には、通常の使用の範囲では具体的な悪影響が判明していないものもある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 1 4

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）だけであり、不都合なもの（副作用）はない。
- c プラセボ効果には、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等
は関与していないと考えられている。
- d プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるため、その変化を目的として医薬品を使用することが推奨される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 1 5

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品に配合されている成分は、光（紫外線）等によって品質の劣化を起こしやすいものが多いが、高温や多湿によって品質の劣化を引き起こすことはない。
- b 一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。
- c 医薬品の外箱等に記載されている「使用期限」は、開封状態で保管された場合でも品質が保持される期限である。
- d 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 1 6

一般用医薬品の販売時における、医薬品の販売に従事する専門家のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。
- b 購入者等が適切な医薬品を選択し、実際にその医薬品を使用する人が必要な注意を払って適正に使用していくためには、可能な限り購入者等の個々の状況の把握に努めることが重要となる。
- c 情報提供を受ける購入者等が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報のみで、その人の状況が把握できるので、他の情報は不要である。
- d 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会を継続的に確保するよう配慮することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 17

サリドマイドに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

サリドマイドは催眠鎮静成分として承認されたが、副作用として血管新生を妨げる作用もあった。妊娠又は妊娠していると思われる女性が服用した場合、(a) 関門を通過して胎児へ移行し、胎児の器官形成に必要な血管の発達が阻害されたことで、四肢欠損などの (b) 異常が発生した。

サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、WHO加盟国を中心に (c) の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	血液－胎盤	先天	市販前
2	血液－胎盤	先天	市販後
3	血液－胎盤	後天	市販後
4	血液－脳	後天	市販前
5	血液－脳	先天	市販後

問 18

亜急性脊髄視神経症（スモン）及びスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに^り対する損害賠償訴訟である。
- b スモンの症状は、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン訴訟により、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。
- d スモン訴訟等を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 19

H I V 訴訟に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。

H I V 訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス (H I V) が混入した原料 (a) から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。

和解後、国は感染者に対する恒久対策として (b) を行うとともに、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて (c) を義務づけるなどの改正薬事法が 1 9 9 6 年に成立し、翌年施行された。

	a	b	c
1	血漿 ^{しょう}	エイズ治療・研究開発センターの整備	感染症報告
2	血漿 ^{しょう}	医薬品副作用被害救済制度の拡充	製造販売後の安全性に関する調査
3	血漿 ^{しょう}	血液製剤の全面使用禁止	感染症報告
4	血球	エイズ治療・研究開発センターの整備	感染症報告
5	血球	医薬品副作用被害救済制度の拡充	製造販売後の安全性に関する調査

問 2 0

クロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）及びC J D訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a C J Dは、真菌の一種であるプリオンが原因とされる感染症である。
- b C J Dは、認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- c C J D訴訟では、国、輸入販売業者及び製造業者が被告として提訴された。
- d C J D訴訟の和解後、国は生物由来製品による感染等被害救済制度を創設した。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

[主な医薬品とその作用]

問 2 1

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a かぜの約 8 割は、細菌の感染が原因である。
- b かぜは、下気道の急性炎症の総称である。
- c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和を図る対症療法薬である。
- d かぜであるからといって、必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）を選択することが最適とは限らない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 2 2

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。

- 1 こうそさん
香蘇散
- 2 はんげこうぼくとう
半夏厚朴湯
- 3 あんちゅうさん
安中散
- 4 しょうさいこうとう
小柴胡湯
- 5 けいしかしゃくやくとう
桂枝加芍薬湯

問 2 3

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 葛根湯は、体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳が出て身体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる。
- b 柴胡桂枝湯は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるもののから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされる。
- c 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。
- d 桂枝湯は、体力虚弱で、汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 2 4

4 5 歳女性が、発熱や喉の痛み等のかぜの症状があるため、次の成分の一般用医薬品のかぜ薬を購入する目的で店舗を訪れ、登録販売者は以下のような相談を受けた。この女性に対する説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

<相談内容>

この薬を服用する際に気を付けることを教えてほしい。また、同じようなかぜの症状がある 1 3 歳の中学生の息子に、この薬を服用させてよいか教えてほしい。

6 錠中：

成分	分量	
トラネキサム酸	7 5 0	m g
イブプロフェン	4 5 0	m g
クレマスチンフマル酸塩	1 . 3 4	m g
ブロムヘキシン塩酸塩	1 2	m g
dℓ-メチルエフェドリン塩酸塩	6 0	m g
ジヒドロコデインリン酸塩	2 4	m g
チアミン硝酸物（ビタミン B 1）	2 5	m g
リボフラビン（ビタミン B 2）	1 2	m g

- a 心臓や脳の血管の病気（心筋梗塞・脳血栓など）で治療を受けている場合は、服用する前に治療を行っている医師等に相談してください。
- b 便秘を起こしやすい成分が含まれていますので、注意してください。
- c 眠気を促す成分が含まれているため、服用後は乗物や機械類の運転操作はしないでください。
- d このかぜ薬は、1 3 歳の息子さんも服用できます。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 2 5

次の成分の一般用医薬品の解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

1 錠中：

成分	分量
イソプロピルアンチピリン	1 5 0 m g
イブプロフェン	5 0 m g
無水カフェイン	5 0 m g

- a アスピリン^{ぜん}喘息を誘発するおそれのある成分が含まれている。
- b ピリン系解熱鎮痛成分が含まれている。
- c イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を抑制することで消化管粘膜の防御機能を高める。
- d 無水カフェインは、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を増強する効果が期待される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 2 6

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選び。

体力に関わらず使用でき、筋肉の急激な^{けいれん}痙攣を伴う痛みのあるもののこむらがり、筋肉の^{けいれん}痙攣、腹痛、腰痛に適すとされる。ただし、症状があるときのための服用にとどめ、連用は避ける。

- 1 ^{ちょうとうさん}釣 藤散
- 2 ^{そ けいかくけつとう}疎経活血湯
- 3 ^{ま きょうよくかんとう}麻 杏 薏甘湯
- 4 ^{けい し か じゅつ ぶ とう}桂枝加 朮 附湯
- 5 ^{しゃくやくかんぞうとう}芍 薬甘草湯

問 2 7

眠気防止薬の有効成分として配合されるカフェインに関する記述の正誤について、正しい組合せを選び。

- a 腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用がある。
- b 胃液分泌抑制作用がある。
- c 乳汁中へ移行するため、乳児に影響を及ぼす可能性がある。
- d 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感^{けん}を抑える効果がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 2 8

次の成分を含有する医薬品の服用に際し、留意すべきことに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アセトアミノフェンは、ライ症候群の発生が示唆されており、小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- b ブロモバレリル尿素は、クローン病の既往歴がある人では、疾患の再発を招くおそれがある。
- c イブプロフェンは、全身性エリテマトーデスの診断を受けた人において無菌性髄膜炎を生じやすい。
- d ジフェニドール塩酸塩は、緑内障の症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 2 9

神経質、精神不安、不眠等の症状の改善を目的とした漢方処方製剤のうち、小児の夜泣きに用いるものの組合せを選べ。

- a さんそうにんとう
酸棗仁湯
- b けいし かりゅうこつ ぼれいとう
桂枝加 竜 骨牡蛎湯
- c か み き ひ とう
加味帰脾湯
- d よくかんさん
抑肝散

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 3 0

乗物酔い防止薬の配合成分とその作用との関係について、正しいものの組合せを選べ。

	配合成分	作用
a	アミノ安息香酸エチル	脳に軽い興奮を起こさせて、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる。
b	クロルフェニラミンマレイン酸塩	延髄にある嘔吐中枢 ^{おう} への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える。
c	スコポラミン臭化水素酸塩水和物	中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる。
d	ジプロフィリン	胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激 ^{おう} を和らげる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 3 1

比較的穏やかな鎮咳去痰^{がい たん}作用を期待して、配合されている場合がある生薬成分の組合せを選べ。

- a キキョウ
- b センブリ
- c キョウニン
- d センキュウ

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問3 2

咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含むものの組合せを選べ。

- a 麦門冬湯ばくもんどうとう
- b 甘草湯かんそうとう
- c 五虎湯ごことう
- d 麻杏甘石湯まきょうかんせきとう

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問3 3

鎮咳去痰薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 鎮咳去痰薬がいかんたんに解熱成分は配合されておらず、発熱を鎮める効果は期待できない。
- b 一般用医薬品の鎮咳去痰薬がいかんたんは、かぜ薬や抗ヒスタミン成分等を含有する医薬品との併用によって、副作用が起りやすくなるおそれがある。
- c チペピジンヒベンズ酸塩は、麻薬性鎮咳成分がいかんである。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする作用がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 3 4

胃腸に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アルジオキサは、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b テブレノン[®]は、胃粘膜を保護し、荒れた胃粘膜の修復を促すことを期待して配合されている。
- c ピレンゼピン塩酸塩は、排尿困難、動悸^き、目のかすみの副作用を生じることがある。
- d ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 3 5

止瀉薬^{しゃ}の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a タンニン酸アルブミンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- b ベルベリン塩化物は、収斂作用^{れん}のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされる。
- c 次没食子酸ビスマス^{もつしよくし}は、抗菌作用のほか抗炎症作用も併せ持つとされる。
- d ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬^{しゃ}は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 3 6

30歳の女性が便秘の症状があるため、次の成分の一般用医薬品の瀉下薬（腸溶性製剤）を購入する目的で店舗を訪れ、登録販売者は以下のような相談を受けた。この女性に対する説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

<相談内容>

現在授乳中であるが、この薬を服用するときは、授乳をやめる必要があるか教えてほしい。また、この薬を服用する際に気をつけることも教えてほしい。

3錠中：

成分	分量
ビサコジル	15 mg
センノシド	40 mg

（腸溶性製剤）

- a 授乳中であっても、服用することは可能です。
- b この医薬品と、ビフィズス菌や乳酸菌などの整腸成分の製剤を並行して使用することは避けてください。
- c 効果が出やすくなるので、毎日服用を続けてください。
- d 服用前後1時間以内は、牛乳を飲まないで下さい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 37

浣腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 浣腸薬は一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- b 注入剤を使用する場合は、薬液の放出部を肛門に差し込み、薬液だまりの部分を絞って、薬液を押し込むように注入する。
- c グリセリンは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し排便を促す。
- d 炭酸水素ナトリウムが配合された坐剤を、痔出血の症状がある場合に使用すると、傷口から血管内に入り溶血を引き起こすおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 3 8

次の成分の一般用医薬品の強心薬を購入しようとする者に対する登録販売者の説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

6 粒中：

成分	分量
センソ	5 m g
ゴオウ	2 m g
ロクジョウ末	5 m g
ニンジン	2 5 m g
レイヨウカク末	6 m g
シンジュ	7. 5 m g
ジンコウ	3 m g
リュウノウ	2. 7 m g
動物胆	8 m g

- a 口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用してください。
- b このお薬には、心筋の収縮力を高める成分を主体として、鎮静作用や強壮作用等をもつ成分が配合されています。
- c 心臓の病気に限らず、医師の治療を受けている場合には、服用する前に治療を行っている医師等に相談してください。
- d 5～6 日間服用しても症状の改善がみられない場合には、医療機関を受診してください。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 3 9

血中コレステロール及び高コレステロール改善薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 低密度リポタンパク質（LDL）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。
- b 心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病の危険性は、血液中のLDLが少なく、高密度リポタンパク質（HDL）が多い場合に高くなる。
- c 大豆油不けん化物（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える。
- d 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^{そう}痩身効果を目的として使用される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問 4 0

貧血及び貧血用薬（鉄製剤）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB 1 2 の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- b 鉄製剤の服用前と比べて服用後に便が黒くなった場合は、重大な副作用が疑われるため、直ちに服用を中止する。
- c 鉄製剤は、消化器系への副作用を軽減するために食前に服用することが望ましい。
- d 鉄製剤は、貧血症状がみられる以前から予防的に使用することが適切である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 4 1

痔^じ及び痔疾^じ用薬とその配合成分に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 一般用医薬品の痔^じ疾^じ用薬は、肛門部又は直腸内に適用する外用薬のみである。
- b 痔核^じは、一般に「いぼ痔^じ」と呼ばれ、便秘や長時間同じ姿勢でいる等、肛門部への過度の圧迫が主な要因とされる。
- c ジブカイン塩酸塩は、痔^じ疾患に伴う局所の感染を防止することを期待して配合されている。
- d アラントインは、痔^じによる肛門部の創傷^{こう}の治癒を促す効果を期待して配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 2

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

- 1 牛車腎気丸^{ごしゃじんきがん}
- 2 猪苓湯^{ちよれいとう}
- 3 六味丸^{ろくみがん}
- 4 乙字湯^{おつじとう}
- 5 苓桂朮甘湯^{りょうけいじゆつかんとう}

問 4 3

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選び。

体力中等度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適すとされるが、胃腸の弱い人では悪心（吐きけ）、嘔吐、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、腸間膜静脈硬化症を生じることが知られている。

- 1 ご しゃくさん 五積散
- 2 けい し ぶくりようがん 桂枝茯苓丸
- 3 か み しょうようさん 加味逍遙散
- 4 うんせいいん 溫清飲
- 5 さい こ けい し かんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯

問 4 4

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 桃核承気湯^{とうかくじょうきとう}は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾^じ、打撲症に適すとされる。
- b 当帰芍薬散^{とうきしゃくやくさん}は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎^{しん}、にきびに適すとされる。
- c 温経湯^{うんけいとう}は、体力中等度以下で、手足がほてり、唇が乾くものの月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹・皮膚炎^{しん}、足腰の冷え、しもやけ、手あれ（手の湿疹・皮膚炎^{しん}）に適すとされる。
- d 四物湯^{しもつとう}は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問45

アレルギー、蕁麻疹^{じんしん}及び一般用医薬品の内服アレルギー用薬に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 体内に侵入したアレルギーにより肥満細胞から遊離されたヒスタミンは、周囲の器管や組織表面の受容体と反応することで、血管収縮、血管透過性低下等の作用を示す。
- b 蕁麻疹^{じんしん}には、アレルギーとの接触以外に、皮膚への物理的な刺激等によってヒスタミンが肥満細胞から遊離して生じるものもある。
- c 内服アレルギー用薬は、蕁麻疹^{じんしん}や湿疹^{しん}、かぶれ及びそれらに伴う皮膚^{かひ}の痒み又は鼻炎等に用いられる内服薬の総称で、抗ヒスタミン成分を主体として配合されている。
- d 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹^{しん}等の治療に用いることを目的とするものがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 6

鼻炎用内服薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a パーキンソン病の治療のため医療機関でセレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人が、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、副作用が現れやすくなるおそれが高く、使用を避ける必要がある。
- b ベラドンナ総アルカロイドは、ヒスタミンの働きを抑える作用を目的として配合されている抗ヒスタミン成分である。
- c フェキソフェナジン塩酸塩は、鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげるアドレナリン作動成分である。
- d グリチルリチン酸は、鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問 4 7

一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 鼻炎用点鼻薬は、鼻炎等の原因そのものを取り除くことにより、症状の緩和を図るものである。
- b 副鼻腔炎のうち慢性のものである蓄膿症^{のう}は、一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬で対処することが推奨される。
- c 鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸^{たけ}）となっている場合にも、一般用医薬品の点鼻薬の使用が適切である。
- d アドレナリン作動成分が配合された鼻炎用点鼻薬は、鼻以外の器官や臓器に影響を及ぼすおそれがあり、長期連用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 4 8

30歳女性が、花粉による目の充血と痒みがあるため、次の成分の一般用医薬品のアレルギー用点眼薬を購入する目的で店舗を訪れた。この点眼薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

1 mL 中：

成分	分量
クロモグリク酸ナトリウム	10 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.15 mg
プラノプロフェン	0.5 mg

(添加物として、ホウ酸、ベンザルコニウム塩化物等を含む)

- a クロモグリク酸ナトリウムは、花粉、ハウスダスト（室内塵）等による目のアレルギー症状（結膜充血、痒み、かすみ、流涙、異物感）の緩和を目的として配合されている。
- b プラノプロフェンは、ステロイド性抗炎症成分であり、目の炎症を改善する効果を期待して配合されている。
- c この医薬品には、防腐剤が配合されているので、ソフトコンタクトレンズを装着したままの点眼は避ける。
- d この医薬品を2日間使用しても症状の改善がみられない場合には、アレルギー以外の原因の可能性が考えられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 4 9

眼科用薬の購入希望者に対する登録販売者の説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 点眼の際は、雑菌が薬液に混入して汚染を生じないように、容器の先端がまぶたやまつげに触れないようにするよう説明した。
- b 目の痛みが激しいので、炎症を抑える成分が入った目薬を買いたいと訴える購入希望者に対して、すみやかに医療機関を受診し、専門医の診療を受けるように促した。
- c アドレナリン作動成分が配合された眼科用薬について、頻回に使用すると、異常なまぶしさを感じたり、かえって充血を招くことがあると説明した。
- d 抗ヒスタミン成分が配合された眼科用薬について、鼻炎用点鼻薬と併用した場合、眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避けるよう説明した。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 5 0

次の成分の一般用医薬品の外用鎮痛消炎薬（貼付剤）に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

1 0 0 g 中：

成分	分量	
サリチル酸グリコール	2. 0	g
グリチルレチン酸	0. 0 5	g
トウガラシエキス	0. 0 2	g
トコフェロール酢酸エステル	0. 3	g

- a サリチル酸グリコールは、局所刺激により患部の血行を促し、また、末梢の知覚神経に軽い麻痺^ひを起こすことにより、鎮痛作用をもたらす。
- b トウガラシ（トウガラシエキス）は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促すことを期待して配合されている。
- c トコフェロール酢酸エステルは、患部局所の血行を促す目的で配合されている。
- d 本剤は、打撲や捻挫などの急性の腫れや熱感を伴う症状に適している。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 5 1

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 外皮用薬は、皮膚表面に生じた創傷や症状、又は皮膚の下にある毛根、血管、筋組織、関節等の症状を改善・緩和するため、外用局所に直接適用される医薬品である。
- b ユーカリ油は、創傷面からの出血を抑えることを目的として配合されている場合がある。
- c ヘパリン類似物質は、患部局所の血行を促す目的で用いられるほか、抗炎症作用や保湿作用も期待される。
- d クロタミトンは、皮膚に軽い灼^{しやく}熱感を与えることで痒み^{かゆ}を感じにくくさせる効果を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 5 2

抗真菌作用を有する外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ミコナゾール硝酸塩が配合されたみずむし薬でかぶれたことがある人は、他のイミダゾール系成分が配合された製品も避けるべきである。
- b ウンデシレン酸亜鉛は、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- c テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- d 湿疹^{しん}か皮膚糸状菌による皮膚感染かはっきりしない場合、抗真菌成分が配合された医薬品を使用することが適切である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 5 3

歯痛・歯槽膿漏^{のう}薬の配合成分とその配合目的との関係について、正しいものの組合せを選べ。

	配合成分	配合目的
a	カルバゾクロム	炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える。
b	ジブカイン塩酸塩	齶蝕 ^{うしよく} により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。
c	カミツレ	歯周組織の血行を促す。
d	オイゲノール	冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺 ^ひ させることによる鎮痛・鎮痒 ^{よう} の効果を示す。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 5 4

口内炎及び口内炎用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足、唾液分泌の低下、口腔内の不衛生などが要因となって生じることが多いとされる。
- b 口内炎は、口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- c 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。
- d 口内炎用薬であれば、ステロイド性抗炎症成分が配合されていても、長期の連用は問題ない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 5 5

禁煙補助剤（咀嚼^{そしゃく}剤）に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。なお、同じアルファベットの（ ）の中には、同じ字句が入る。

口腔^{くう}内が（ a ）になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔^{くう}内を（ a ）にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。また、ニコチンは（ b ）系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳^{がい}去痰^{たん}薬、鼻炎^じ用薬、痔疾^じ用薬等）との併用により、その作用を（ c ）させるおそれがある。

	a	b	c
1	酸性	交感神経	増強
2	酸性	交感神経	減弱
3	酸性	副交感神経	増強
4	アルカリ性	交感神経	減弱
5	アルカリ性	副交感神経	減弱

問 5 6

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ビタミンは、「微量（それ自体エネルギー源や生体構成成分とならない）で体内の代謝に重要な働きを担うにもかかわらず、生体が自ら産生することができない、又は産生されても不十分であるため外部から摂取する必要がある化合物」と定義される。
- b ビタミン成分等は、多く摂取したからといって適用となっている症状の改善が早まるものでなく、むしろ脂溶性ビタミンでは、過剰摂取により過剰症を生じるおそれがある。
- c ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用があるとされている。
- d グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 5 7

ビタミンA主薬製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ビタミンAは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b 目の乾燥感や夜盲症の症状の緩和に用いられる。
- c 病中病後の体力低下時、発育期等のビタミンAの補給に用いられる。
- d 妊娠3ヶ月以内の妊婦は、医薬品以外からのビタミンAの摂取を含め、過剰摂取に留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 5 8

エタノール及びイソプロパノールの殺菌消毒作用等に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アルコール分が微生物のタンパク質を変性させることによって、殺菌消毒作用を示す。
- b 結核菌に対して殺菌消毒作用を示すが、真菌類に対しては殺菌消毒作用を示さない。
- c エタノールのウイルスに対する不活性効果は、イソプロパノールよりも低い。
- d 脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返して使用する場合には、適さない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 5 9

消毒薬の誤用・事故等による中毒への応急処置に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置として、通常は牛乳などを飲ませるが、手元に何もなければまず水を飲ませる。
- b 原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合には、自己判断で安易に吐き出させることは避け、すみやかに医療機関を受診させる。
- c 誤って目に入った場合、顔を横に向けて上から水を流すか、水道水の場合には弱い流れの水で洗うなどにより、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。
- d アルカリ性の消毒薬が誤って皮膚に付着した場合は、水洗する前に、中和剤を用いて中和する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 6 0

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで、疾病を早期発見するためのものである。
- b 専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されることのないものを体外診断用医薬品という。
- c 検査に用いる検体は、尿、糞便、鼻汁、唾液、涙液、採血した血液などである。
- d 一般用検査薬の対象には、遺伝性疾患の診断に関係するものも含まれる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

[illegible]